

1. とうもろこしのシカゴ定期は、6月には390セント／ブッシェル前後で推移していたが、その後は受粉に適した天候が続いたことや、8月10日発表の米国農務省需給見通しで、史上最高の単収見通しとなったことなどから、360セント／ブッシェル前後まで下落した。その後、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、生産量見通しが下方修正されたことなどにより、現在は370セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、6月には380ドル／トン前後で推移していたが、米中間の貿易摩擦により米国からの大豆輸出が大幅に減少する見通しであること、8月10日発表の米国農務省需給見通しで、米国産大豆の期末在庫率が大幅に改善されたことなどから、330ドル／トン台まで下落した。その後、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、生産量見通しが下方修正されたことなどにより、現在は340ドル／トン台で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には45ドル／トン前後で推移していたが、その後は中国向けの石炭輸送需要が増加したことや、原油相場が堅調に推移していることから上昇し、現在は50ドル／トンを超える水準で推移している。
4. 外国為替は、6月中旬には110円前後で推移していたが、米国の経済指標が好調であることなどから、114円前後まで円安がすすんだ。その後、米国の金利上昇を受けた株価下落の影響などから、現在は112円台となっている。

